

研修テーマ	カシノナガキクイムシによる樹木の枯損	参加者	埼玉支部 25名 他県支部 5名
講師	小林正秀氏 京都府農林水産技術センター	場所	Withyou さいたま 視聴覚セミナー室
資料	「カシノナガキクイムシの生態に基づくナラ枯れの防除法」・他資料 ～P-pointでの解説～	記録	成山久広
目的	カシノナガキクイムシの生態及び気象がナラ枯れに及ぼす影響を認識し、カシノナガキクイムシの捕獲トラップ等の設置実例等から樹木枯損を防ぐ防除法を学ぶことで、カシノナガキクイムシによる被害の軽減に努めるとともに、県内での被害拡大防止につなげることを目的とする。		

■研修内容

(第一部) ナラ枯れの歴史・要因・カシノナガキクイムシの生態について

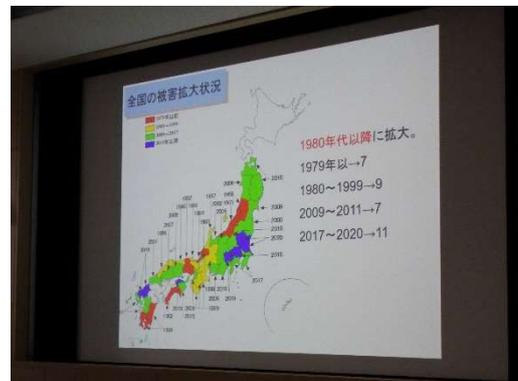
カシノナガキクイムシの潜入を受けた樹木が枯れる、ブナ科樹木萎凋病（ナラ枯れ）の被害の歴史及び近年ナラ枯れが急速に拡大した要因の一つとして、温暖化や燃料革命の影響・農山村の過疎化による薪炭林の放置によってブナ科樹木が大径木化し、カシノナガキクイムシの繁殖環境が向上したことが要因とされている。

大径木ほどカシノナガキクイムシの穿孔被害を受けやすく枯れやすいこと、大径木は繁殖に利用できる容積が大きく、餌である酵母の生育できる含水率が維持されやすいため、カシナガの繁殖に適していること（直径25cmが閾値と推定）が特筆すべき点である。

また、シノナガキクイムシに穿孔されても枯死に至らない「穿入生存木」は、その後の穿孔被害に対する抵抗力が増し、残存してゆくことからナラ枯の被害軽減には「穿入生存木」の確保や保護が有効である。



講義風景



被害の推移

(第二部) ナラ枯の防除法

ナラ枯れの防除法は、予防法（穿入防止法と穿入を受けた木の枯死回避法）と駆除法（樹体内の成虫及び幼虫駆除法と、野外を飛翔する成虫の駆除法）に大別できる。

予防法としては、「シート被覆法」・「殺菌剤樹幹注入法」等がありそれぞれ施工性・効果や費用に長短がある。樹体内のカシノナガキクイムシの駆除法としては、「伐倒くん蒸」が普及しているが、穿入生存木の残存判断が課題である。飛翔するカシノナガキクイムシ防除法としては、「餌木誘殺」（玉切原木に誘引→焼却）・「おとり木法」（殺菌剤注入立木に合成フェロモンを設置誘引）等がある一方で、被害区域端部で行うと誘引効果から被害地の拡大につながる事が懸念される。

誘引駆除法として開発した「ペットボトルトラップ法」(ペットボトル先端部を30段重ね最下部(捕虫部)にエタノールを入れ誘引する装置)によって成虫の大量捕獲が可能となり、粘着紙を併用することで面的捕獲を可能にし、誘引駆除に有効であるとの実験結果を得た。

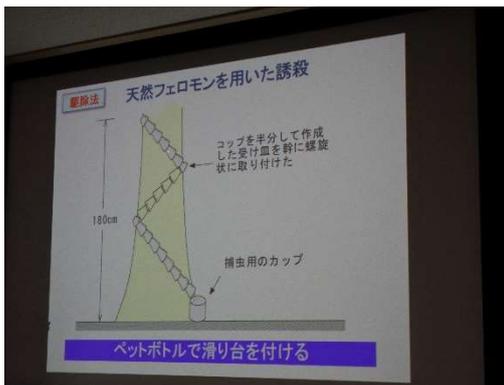
防除の目的は、トラップ設置木のマスアタックの軽減による枯死回避と周辺の樹木へのアタックの軽減と枯死回避にあり、「穿入生存木」を多く残存することでブナ科樹林の被害拡大の軽減及び保護につながられる。



講義風景



トラップ 周辺の穿入生存木の模式図



ペットボトルトラップ 設置例



ペットボトルトラップ 実物